

関東への鉄骨供給増

海上輸送コスト低下映す

中国地区から関東圏などの物件向けに鉄骨を海上輸送で供給するファブリケーターが増えている。内航船の運賃が低水準で推移していることから、中国地区で製作した鉄骨の価格競争力が向上していることが要因だ。全国的に人手不足などの影響で鉄骨の製作能力が限られる中、鉄骨需要の増加が見込まれる夏以降、こうした動きが活発化する可能性がある。

中国地区ファブ

これまで中国地区では山口県に工場を持つ、大手ファブリケーターなどが他地区のプロシエクトに対し、海上輸送で鉄骨を供給してきた。最近はSグレード認定工場を持つ大手ファブに限らず、地場以外の案件を手掛けるファブが増加している。

広島市のHグレードファブも大手鋼材流通とタイアップし、関東や沖縄県の物件向けの鉄骨製作に力を入れ

る。加工を終えた鉄骨は近隣の港湾までトレーラーで輸送し、RO船で関東へ、その後再び陸送で現場へ入る。関東の鉄骨単価は全国的にも高い水準にあり、長距離の輸送コストを加えても十分に採算が取れるという。あるファブリケーター

の貨物船による内航輸送量は前年同期比96・7%の1億2039万8000ト。13年度をピークに減少傾向が続いており、運賃もこれを受け低水準で推移している。

も、広島から運ぶ方が安くなっている」と話す。日本内航海運組合連合会によると、2016年度上期(4-9月)への鉄骨供給はこれまで北陸からのものが多かったが、海上輸送のコストが低下したことで北陸からの陸送より